

令和 7 年度 学 校 経 営 計 画

1 学校教育目標

- ア 学力教養の充実
- イ 健全な心身の育成
- ウ 豊かな個性の確立

2 学校の特徴

令和5年度に創立110周年を迎えた。現在、普通科、薬業科、商業科、海洋科の4学科を有する総合制高校の特色を生かし、「高きを求める情熱」の生徒目標と「文武両道」の生活信条のもと、社会性や多様性を育む教育活動を推し進めることで、生徒は活気に満ちた学校生活を送っている。

中学校や進路先企業からは、明るい学校、部活動が活発な学校として評価され、厚い信頼を受けている。また、地域との連携として、地域行事への積極的参加・クリーンアップ活動・ボランティア活動等を推進し、同窓生、地域の人々からも温かい眼で見守られている。

3 学校の現状と課題

学校における様々な教育活動において、教員組織を挙げて、生徒一人一人の個性を大切にし、自主・自律の精神を身につけさせることを基本としている。また、特色ある4学科を有することが互いの刺激となり、「滑高ゼミ」や「専門学科総合選択」の授業を通して、他学科の専門的知識を学ぶことにより、さらに滑高生としての自覚を高め、生徒、教職員ともに地域に信頼される学校をつくろうという気概に充ちている。

県東部を代表する総合高校として、普通科の進路意識向上を目指した特色化と、薬業科・商業科・海洋科の専門性の伝統と進化を追求し、興味あふれる高校像を広く地域に発信し、いかに中学生を魅了できるかを模索していきたい。そのための特色化の具体策、伝統継承の分析と新たな視点の検討等、本年度の教育活動に加えていきたい。

上記目標達成のための課題として、①生徒の学習意欲を喚起し自学自習の学習習慣の定着を促す、②生徒の自主性・主体性を高める特別活動の充実に向けた取り組みを推進する、③専門学科に比べて、特色を出しづらい普通科の魅力向上に資する教育活動を展開する、等が挙げられる。

4 学校教育計画 ①学習活動 ②学校生活 ③進路支援 ④特別活動 ⑤その他

項 目		目 標 及 び 計 画	
(1)	① 学習活動 (指導) 重点 1①②	目標	各教科・科目の目標を明確にし、生徒に応じた適切な指導を行い、基礎学力や学習習慣の定着を図る。また、生涯にわたって主体的に深く学ぶことができるよう興味・関心をもたせ、学びがウェルビーイングにつながるという学びそのものの楽しさ・大切さを感じさせる。
		計画	①授業内容の精選や関連科目との系統化を図るとともに、多様な評価方法の検討を行い、授業内容の充実を図り適正な評価につなげる。 ②年間指導計画ならびに観点別学習状況の評価法を検証し、工夫や改善を推進するとともに、定期考査や小テスト、校外模試や資格検定の結果などから学力の定着状況を把握するよう努める。 ③学級毎に面接指導や諸調査等を計画し、生徒の能力・適性の把握に努める。また、学習活動と部活動との両立を進める際の家庭学習(※)のあり方・必要性を伝え、習慣化を図る方法を探る。 ④基礎的事項の指導を徹底する。普通科では、一部の教科で実施している習熟度別授業や展開授業を活用し、生徒の自律心と探究心が生まれやすい指導法を探る。一方、専門学科では少人数制授業を実施するなどし、例えば目標とする資格取得につなげ自信をつけさせる指導を目指していく。さらに、長期の目標を見据えた辛抱強さを習慣に組み入れていくことも重要な要素である。 ⑤不登校や起立性調節障害が生じるケースに対応し、多様な学びの方法を準備し、学びを止めない姿勢を確立するよう努める。 ⑥文字情報に触れる習慣を身につけ、社会問題への関心を喚起させる。表現力やコミュニケーション能力を高め、質の向上を図る。 (※) 家庭学習は通塾、すき間時間活用、スマホを用いた学習など多様化している。
(2)	① その他 (デジタル対応と生徒データ集積) 重点 1③	目標	スクールポリシーの実現を目指す。生徒・保護者の進路要望へ丁寧に対応し、日々の学習活動から得られる多様な評価要素を効率的にまとめ、適正な学習評価につなげるためにICT活用を一層促進する必要がある。諸業務を効率化し生徒の状況を捉えるための時間確保につなげ、長期的な視野で滑高生が身につける資質・能力(コンピテンシー)の向上を図る。諸調査で得たデータを蓄積し、各学科が持つ特性を最大限に生かしつつ、多様性を受け入れた連携・協力を推進し生徒の良質な学びにつなげる。
		計画	①本校がルーブリックに掲げる学びに向かう力・人間性の諸要素「協働力、向上力、自律心、公德心」が育まれている教育活動を抽出していく。 ②(1)校務支援システム、(2)教員研修の申請システム、(3)オープンハイスクール(申請、生徒アンケート)、(4)互見授業アンケート、(5)前向きな学びに関する調査についてGoogleFormsを利用し引き続き集積データから考察を進める。 ③生徒の状況は、部活動の大会や考査・模試、資格のための補習など時節によって強度の対象が変化する。本校の特色「文武両道」を目指すには、心身の健康に加え対象や場面に応じた頑張り方が大事になってくる。求めに応じた能力、自律的に考え行動できる能力を育てるために、学年団や学科が長期の視点に立った声かけや早めに相談に応じ、行動変容につながる事例を集めたい。
(3)	① 図書指導 重点 1①②	目標	高い教養と豊かな情操を養い、創造的な人間形成に寄与する活動を進める。
		計画	①授業・「総合的な探究の時間」・「滑高ゼミ」などにおける読書・調査研究を支援するため、各教科等との連携を密にする。 ②生徒図書委員会の活動を活発にし、生徒の求める図書・資料の充実に努め、効果的な要望の収集方法や提示方法を工夫する。
(4)	③ 進路指導 重点 3 ①②③	目標	生徒一人ひとりが自己の能力、適性を見出し、それらに応じた進路選択ができるようサポートする。
		計画	①1学年では、入学時に家庭学習の習慣を確立させるとともに、高校3年間・卒業後の展望を持ち、主体的に進路選択できるよう支援を図る。 2学年では、進路意識の向上を促し、学力の伸長を目指させる。3学年では、進路目標達成・実現のためのきめ細やかな指導・支援の充実を図る。 ②学級担任等との面談や、外部講師による講演、ホームルーム等における進路研究、各種体験学習等を通して、進路意識の向上を図り、早期に目標を設定させる。 ③保護者会や保護者進路説明会で、情報・資料等を提供し、本校の進路指導及び生徒の進路選択・実現について理解・協力を得る。

項 目		目 標 及 び 計 画	
(5)	4 特別活動 重点 4①②	目標	学校行事、生徒会活動、ボランティア活動、部活動等を通して心身の健全な発育を促進し、自主性と規律ある習慣を身に付けさせるとともに、有為な社会人としての資質を育てる。
		計画	<u>①学校行事（春季スポーツ大会や体育大会、学園祭等）の運営方法や企画内容は、クラス・生徒会・委員会に工夫をさせて、教育効果を高める。</u> ②ホームルーム活動や生徒会活動、ボランティア活動、部活動においては、生徒が自主的・自発的に生き生きと活動するようにする。 <u>③「文武両道」である部活動と学習の両立を目指し、活動内容や活動時間を工夫し、生活を整えさせる指導を心がける。</u>
(6)	2 生徒指導 重点 2①②	目標	生徒の自主性・自発性を尊重し、将来に渡って社会に対応できる誠実で健全な心身の育成や人づくりを目指す。
		計画	①基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに規範意識の向上を図り、安全教育に努める。 ②生徒の生活実態の把握や、様々な活動を通して生徒理解を深め、問題を持つ生徒への早期発見に心がけ、生徒の自己育成力の伸長を支援する。 ③生徒会・ホームルーム活動など生徒の意向を尊重し、良好な関係を保持しながら生活指導を推進する。 ④家庭や関係機関との連携を密にし、生徒の健全な育成に努める。
(7)	2 保健指導 重点 2①②	目標	環境整備・美化活動に努めることにより、快適な学習環境を自ら作る態度を養い、健康で安心・安全な生活が送れる生徒の育成を図る。また、学校生活の中で不適応感を持つ生徒の早期発見と適切な対応に努め、問題解決や自立に向けて、家庭や関係機関との連携を取りながら支援を進める。
		計画	①日常使用する場所の清掃や整備に関心を持たせ、清潔で落ち着いた環境を整える態度や習慣を身につけさせるよう指導する。 ②健康診断・各種検診の結果をもとに、健康についての理解が深まるよう適切に指導する。また保健に関する情報を随時発信し、規則正しい生活習慣を自覚させ、健康保持や疾病予防の自己管理の徹底に努めさせる。 ③学校保健委員会の開催及び自主的な生徒保健委員会・環境美化委員会活動の推進を図る。 ④施設、設備、用具の点検を定期的に行い、安全な環境づくりに努めるとともに、防災に対する意識を向上させる。 ⑤教育相談の企画運営を行うとともに、教育相談に対する教職員の意識向上に努める。 ⑥教育相談日より等の発行により、心の健康に関して生徒に啓蒙を図る。 ⑦教育相談連絡会やケース会議を随時開催し、支援を必要とする生徒の共通理解を深めるとともに、教職員・保護者・関係機関等との連携を図り、早期対応に努める。
(8)	1 3 薬業科 重点 1・3①	目標	・自己の可能性を高め、向上心・向学心を育てる。 ・富山の地域産業を支え、貢献する人材を育てる。
		計画	①資格・検定の合格率を上げる。 ②プロジェクトなどの活動を通し、地域へ貢献する。 ③課題研究・実習を通して主体的態度と実践力・協働意識の育成を図る。
(9)	1 3 商業科 重点 1・3①②	目標	・時代の変化に対応した様々な資格取得や体験活動を通して、社会人基礎力の向上を図る。 ・新学習指導要領に対応した指導方法や評価方法の改善を図る。 ・生徒の進路希望の実現を目指すため、上級の資格取得の充実を図る。
		計画	①1年生ではインターンシップ、2年生は研修旅行での地域資源を観光ビジネスに活かす取り組み、3年生は販売実習などの体験活動を実施する。 ②財務会計Ⅰ、原価計算を重点科目とし、各検定の合格率、3年生は3科目以上1級取得者の増加を目指すし、生徒の学習意欲の向上を図る。 ③総合的探究の時間は昨年度から、地域活性化探究やプログラミングに関する探究、税理士・公認会計士に関する探究活動に取り組む。
(10)	1 3 海洋科 重点 1・3①②	目標	・体験的な学習や課題探究型学習を基盤とした学習意欲の向上を図る。 ・基礎的・汎用的能力の育成を目指す。 ・水産・海洋分野の課題を見いだせる思考力と探究力を養う。
		計画	①体験活動を充実させることで学習意欲および学力の向上を図る。 ②水産市場や環境問題における革新的技術の進展を学び、進路選択に必要な素養と知識・技術力の必要性を認識させる。 ③各種検定・資格等の取得を奨める。 ④課題研究の調査・研究では、共通テーマ（SDG's）の下で活動する。

項 目		目 標 及 び 計 画	
(11)	⑤ 地域との連携 重点 5 ①②	目標	開かれた学校づくりに努め、地域との連携・交流を推進することにより生徒の健全な育成を目指す。
		計画	① P T A 活動をより活性化し、地域との連携を深める。 ② 学校 Web ページ、P T A だより、教育安全情報提供システムなどをおして、本校の教育活動や地域との連携活動等を広く紹介することにより、地域との情報の交流を図る。 ③ 生徒の対外的な奉仕活動や、地域の人々との交流行事を推進する。

(様式 3)

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

①学習活動 ②学校生活 ③進路支援 ④特別活動 ⑤その他

令和 7 年度 滑川高等学校アクションプランー 1ー		
重点項目	①学習活動 (1) 学習指導、一部 (2) その他を含む	
重点課題	スクールポリシーの理解、浸透を推進し、学習面でポリシー実現を目指す	
現 状	・教務規程に沿った校務支援システムの運用体制が整備されたが、引き続き入力や点検のための業務負担が大きい。 ・本校のポリシーに沿った前向きな学び調査では、自律心を持っていないと感じる生徒が多いことが数値で示され、恒常的な課題と認められている。 ・ICT 機器を用いた授業が定着している反面、接続環境や視聴覚機器の整備ができていない教室での授業がある。 ・学級担任の面接時間確保に課題がある。不登校や起立性調節障害、友人関係から生じるトラブルを訴える生徒・保護者への対応に迫られ、個別最適な学びへの負担は大きいと感じる。	
達成目標	① スクールポリシーの実現が「高さを求める情熱」の実現につながる。このことへの理解を増やす。 ② 教職員は、民主的な手続きでポリシーが決定されていることを知っている。教育活動ごとにルーブリックに反映させ見える化することで一層身近に活用できるよう工夫する。 ③ 詳細が書かれたルーブリックに教育活動の事例を添えた。これにより教育活動で身につく力や心が見える化し、一層の理解に努める。	③ 学びに向かう力が測れる「前向きな学びアンケート」を継続する。 ④ 時間割での教室割り当て作業を改善する。 ⑤ 健全に学習に向かえないと訴える生徒の状況をより早く把握し、未然に解決や改善につなげられる方策がないか検討する。 ③ 調査によって得た統計的な数値が、多様な学びを推進する本校生徒を表せるものとしたい。また、課題である自律心を育む方法にも言及したい。
方 策	・スクールポリシーを提示し、実現のためのルーブリックの認知度を高める。 ・校務支援システムの教務部に該当する業務のうち、成績・出欠の確定までに要する教員の負担を精査する。 ・互見授業を通じ、グループワークやタブレットを用いた ICT 教育などの授業展開を引き続き推奨・推進する。 ・生徒の評価方法や授業のあり方等について相互に情報共有する。	・学年及び情報部、進路指導部等と連携し学びに向かう力の向上のための対策を講じる。 ・学習課題を個別なケースで対応する際、主体的に学ぶ意欲を高めさせ、学習を止めない方策を多角的に協議する。 ・引き続き、任意の 2 学級の学業成績で「主体的に学びに向かう態度」の評価が C であった科目数、人数を抽出する。

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状のまま D : 現状より悪くなった)

令和7年度 滑川高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	2学校生活 (6)生徒指導 (7)保健指導	
重点課題	・スマホの適切な使用と自己管理能力の育成 ・環境美化	
現 状	・スマートフォン等の長時間の利用によるネット依存や学習習慣の乱れている生徒が多くみられる。また安易に SNS で写真や動画を挙げるなど個人情報の取り扱いや不適切な書き込みなど、利用マナーやモラルの欠如がみられる。 ・環境整備に取り組む姿勢は全体的には良くなっているが、清掃開始が遅れたり、清掃活動に積極的に参加できない生徒もみられる。	
達成目標	①スマートフォン等の使用に関する自己管理能力の育成とネット上のルールやマナーの徹底を図る。また利用に伴う危険性についての認識を高めるとともに、トラブルに対する対処法等について身につける。	・環境美化委員会を中心とした環境整備、美化活動を習慣化するための自主的な活動を図る。
	②スマートフォン等の利用の際に危険性を認識しながら利用している生徒の割合80%以上	・年間8回 (各学期の美化週間、6月の中庭花植え、7月、8月の除草や水遣り、8月、12月の長期休業中の部活動におけるトイレ・更衣室の掃除など)
方 策	・生徒指導通信や集会等を利用し生徒への注意喚起を行うとともに、風紀委員や生徒会による使用のルール作りなど自発的な活動により意識づけを行う。 ・適切な利用について家庭でのルールづくりを推奨し、ネットトラブルへの未然防止を図る。 ・講習会や研修会等を開催し、ネットに関わる危険性を周知させるとともに、トラブルへの対処法などを身につける。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和7年度 滑川高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	3進路支援 (4)進路指導	
重点課題	・進路目標の早期設定と進路実現に向けた支援 ・進学・就職に関する情報収集及びそれらを活かした進路指導・支援の充実	
現 状	・具体的な進路目標を定める時期が遅いため、実現に向けて取り組む時間が十分確保できない生徒が多い。 ・進路目標達成のために、今何をすべきかを考え、見通しをもって実践できる生徒が少ない。	
達成目標	①2年3学期までに具体的な志望校、志望学部・学科を決める生徒の割合 ②第1志望校への合格率(3年9月志望) ③大学や入試に関する情報収集および生徒一人一人の進路実現に向けた指導・支援の充実	④希望する職種への内定率 ⑤多様な生徒の進路指導に対応できる体制づくり
	①70%以上 ②70%以上 ③適切な情報を提供し、個々の生徒に応じた進路支援ができたか。	④100% ⑤科の枠にとらわれず、情報の共有化を図り、全校体制での指導ができたか。
方 策	・進路面談を適宜行う。 ・進路講話や出前授業、研修旅行、大学訪問などの行事を充実させ、進路意識を高める。 ・オープンキャンパスへの積極的参加を促す。	

	・校内テストや外部模試の結果を基に自分の学力を把握させ、一層の努力を促す。 ・オープンキャンパスへの積極的参加を促す。 ・大手予備校からの情報や各種学校説明会で得た情報を教員間で共有し、指導に活かす。 ・教科補習、個別学習指導、面接指導等を全教員で行う。 ・校内研修会を行い、教員の指導力向上を図る。	・教員が企業訪問を行い、求人情報や卒業生の情報の収集に努める。 ・就職試験に向けた指導を進路指導部、各科、学年で連携して行う。 ・就職支援アドバイザーとの連絡を密にし、就職内定のための支援を行う。
--	--	--

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和7年度 滑川高等学校アクションプラン - 4 -		
重点項目	4 特別活動 (5) 特別活動	
重点課題	・生徒会・ホームルーム・部活動において、自主的な活動を促し、リーダーシップを養成する。 ・ボランティア活動に積極的に参加する。 ・部活動と学業を両立し、困難に負けない人間性を育む。	
現 状	・指示を聞いて正しく行動をとることのできる生徒は増えたが、自らがリーダーとなって責任を果たそうとする生徒が少ない。 ・学校行事に熱心に取り組む生徒は多い。しかし、与えられた活動に乗るだけで、自ら改善点を考えたり、アイデアを出したり、向上させようとする生徒が少ない。 ・ボランティア活動への参加は、一部の科・部活動に限られている。 ・部活動は原則全員加入制を採用しており、高い目標を持って熱心に取り組んでいる部活が増えてきている。 ・学習と部活動の両立を図るための生活指導、面談が十分といえない。	
達成目標	①学校行事やホームルーム、生徒会活動、ボランティア活動において、役割や責任を持ち、積極的に参加することができたと感じる生徒の割合	②学習と部活動の両立を目指し、自身を向上させて、部活動の内容や時間、生活リズムを工夫し、充実感を持った生徒割合
	・80%以上	・80%以上
方 策	・各行事や各種取り組みにおいて、生徒が主体的に活動できるよう動機付けをする。 ・組織や役割分担を明確にすることで、リーダーを育てると共に、互いに連携し支援し合えるように指導する。 ・各クラスに学級長を配置し、生徒議会などを通してクラスの意見を吸い上げ、学校全体で行事や生徒会活動に関わりあえる組織作りを意識させる。 ・先を見通したHR計画、またテーマの設定や討議資料の作成、事前研究などの準備をすすめる、その反省をする。 ・市や県、児童館などからのボランティアの要請を積極的に明示する。その中でも地域ボランティアの参加を積極的に促す。 ・ホームルーム、部活動においてもボランティアを行う。 ・生徒の主体性を尊重し、その中でルールを守り、生徒自らが学校行事・生徒会活動について、企画・アイデアを発案できるムードを作る。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和7年度 滑川高等学校アクションプラン - 5 -			
重点項目	① 学習活動 ③進路支援 (8)(9)(10) 専門学科指導		
	< 薬 業 科 >	< 商 業 科 >	< 海 洋 科 >
重点課題	資格取得の充実	資格取得の充実	①水産関連等の資格・検定取得の推進 ②放課後アクティブラーニングの活性化
現 状	・家庭学習が不足している生徒が増えており、資格取得の意欲も減少している。 ・部活動と学業の両立を目指している。	・学習内容が新課程になって大幅に変更され、難易度も高くなり、1級の取得者が伸び悩んでいる。	①各種検定・資格試験の合格者数が伸び悩んでいる。 →自主学習時間の恒常的な不足が認められる。 ②環境活動発表や魚食振興のための外部との協働に海洋クラブが活躍する状況にある。
達成目標	・危険物乙種第4類をはじめ危険物乙種全類、品質管理検定などの各種資格検定に取り組む。	① 財務会計Ⅰ、原価計算を重点科目として、全商簿記実務検定1級の合格者数。 ② 3年生は3種目以上1級取得者の人数。	①水産関連等の資格・検定取得数の向上をマリンマイスター申請者数で判断する。 ②海洋クラブ活動をさらに活性化させ、<u>研究活動の外部発表</u>を行う。
	・危険物乙種第4類 1学年70% 2学年100% ・危険物乙種全類3学年90%以上を目指す ・品質管理検定の受検	① 60%以上 ② 70%以上	①1人年間3つ以上 ・申請率85%、プラチナ・ゴールドが申請者の35%以上 ②昨年と比較し、質（進捗）で比較。
方 策	・危険物乙種全類取得を目指し、学力補充を支援する。 ・品質管理検定に取り組む。 ・その他の資格（パソ検、英検、漢検など）を取得するための基礎学力を充実させるよう、意識付けを行う。	・学習意欲の喚起を促す働きかけを行い、最後まで粘り強く取り組むように指導する。 ・ICTの効果的な活用。 ・習熟度別学習を効果的に活用。 ・放課後補習の実施。 ・生徒個々の能力に応じた学習支援を行う。 ・指導者間の意思の疎通を図り、バランスよく学習指導を行う。	①補習にて、資格取得のための学習を行い、意識の向上を促す。個別対応を充実させる。 ②意欲的な生徒への参加を促し、社会貢献を兼ねた継続的な活動を行う。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

重点項目	⑤ その他 (12)地域との連携・協力	
重点課題	PTA活動の活性化	
現 状	・役員会について昨年度は第1回83%（一昨年度74%）、第2回75%（一昨年度68%）、第3回63%（一昨年度57%）の参加率であり、一昨年度を上回った。 ・PTA行事への参加者数は、昨年度はPTA総会76名：参加率13.1%（一昨年度85名：参加率14.7%）、進路研修会22名（一昨年度16名）、挨拶運動38名（一昨年度19名）であった。 ・PTA役員会やPTA行事の様子をホームページで発信している。PTAだよりを年3回発行している。	
達成目標	・PTA関連行事への参加率の向上	①Web サイトの内容の充実 ②情報安全メールの登録増
		①迅速な情報発信と内容の充実 ②全学年保護者登録90%以上
方 策	・案内を早めに配布し、ホームページにもあげる。 ・ホームページにPTA活動の様子をこまめにアップし、活動への理解・関心を高める。 ・PTAだよりなどを通して、PTA活動への関心を高め、参加を促す。	①Web サイトのリニューアルを終えたので、地域及び受検を考える中学生に向けた迅速な情報発信に努める。また部活動の大会結果や日々の活動内容も掲載し、学校の魅力を発信する。 ②発信の内容を見直し、発信回数を増やすとともに、保護者懇談会などで未登録者への呼びかけを随時行っていく。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった）